



**KITOKU
SHINRYO**

第60期

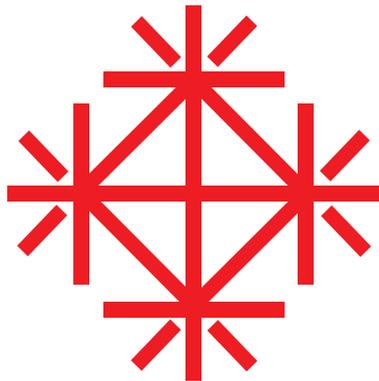
中間期株主通信

平成19年1月1日～平成19年6月30日

木徳神糧株式会社

To our shareholders

株主の皆さまへ



【企業理念】

誠意と感謝の気持ち
クオリティの追求
新しい価値の創造

contents

P.01	株主の皆さまへ
P.03	トップインタビュー
P.04	木徳神糧アレコレ通信
P.05	事業の概況
P.06	連結財務ハイライト
P.07	連結財務諸表
P.09	単体財務諸表
P.10	会社概要

中間連結売上高

(単位：百万円)



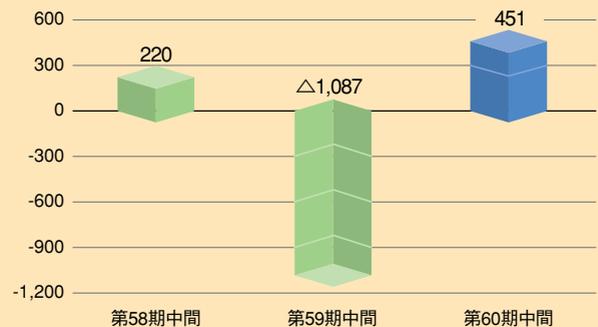
中間連結経常利益

(単位：百万円)



中間連結純利益

(単位：百万円)



皆さまには、ますますご健勝のこととお慶び申し上げます。第60期中間期株主通信をお届けするにあたりまして、日頃のご支援に心よりお礼申し上げます。

経営成績の全般状況

当中間連結会計期間におけるわが国経済は、企業収益の改善に伴う民間設備投資の増加、雇用情勢の改善、個人消費の持ち直し等により、景気は回復基調を持続しております。一方、金利上昇への懸念や定率減税全廃による税金負担増等により、個人消費の先行きは不透明な状況が続いております。

当社グループが関連する米穀卸業界におきましては、人口の減少、少子高齢化の進行、若年層の米離れ等により、米の消費量は長期的に一貫して減少しております。また、食事形態の変化、小売業界のオーバーストアによる販売競争の激化等により、厳しい販売競争が続いております。一方、主要仕入先である全農の米穀事業改革の進捗、コメ価格センターによる入札制度の改定が行われること等により、仕入における新たな対応が求められております。

このような状況のなか、当社グループは米穀事業における玄米販売数量の増加等により、売上高49,758百万円（前年同期比12.6%増）となりました。また、米穀事業における在庫の適正水準維持、製造コストの低減に加えてグループ全体の販売費用及び一般経費を削減した結果、営業利益は418百万円（前年同期比86.7%増）、経常利益は385百万円（前年同期比168.9%増）となりました。固定資産売却益139百万円、投資有価証券評価損36百万円の計上があり、中間純利益は451百万円（前年同期は1,087百万円の中間純損失）となりました。

通期の全般の見通し

下半期のわが国経済の見通しにつきましては、景気は回復基調を持続するものと思われませんが、金利の上昇等の懸念材料があり、個人消費の先行きは不透明な状況にあります。

主力である米穀事業におきましては、人口の減少、少子高齢化の進行等による消費量回復の見込がないことから、卸会社は依然厳しい販売競争の環境にあります。また、鶏卵事業並びに鶏肉の販売につきましては、世界的な飼料穀物の需給事情により配合飼料価格の高騰が継続されることから、依然として厳しい販売環境にあります。

このような状況のなか、当社グループにおきましては、引き続き米穀事業の営業力、コスト競争力の強化につながる施策を推進し、併せて企業体質の強化、消費者のニーズに合致する商品開発の促進、コメ関連加工食品等の開発に取り組んでまいります。

また、当社グループ内の経営資源の有効活用と製造体制の再編を図るため、既に公表しました通り、平成19年10月1日より完全子会社である株式会社ライスピアを吸収合併いたします。

平成19年12月期通期の業績見通しにつきましては、売上高98,626百万円、営業利益731百万円、経常利益557百万円、当期純利益489百万円を予想しております。

皆さまにおかれましては、今後とも変わらぬご指導とご支援を賜りますようお願い申し上げます。

平成19年9月

代表取締役社長 平山 惇



代表取締役社長

平山 新 社長

プロフィール 昭和22年生。平成6年(株)ライスピア代表取締役社長として出向中に取締役就任。平成16年に専務取締役として復帰し、平成19年3月に代表取締役社長に就任。好きな言葉は、「存在意義」。

平山新社長に、今後に向けての抱負や経営ビジョンなどを語っていただきました。



社長就任にあたり、抱負をお聞かせください。

当社は明治14年に創業してから数えると、今年は125周年に当たりますが、創業家以外の社長就任は今回初めてであり、この大任を受けて身の引き締まる思いです。米穀業界はいま大きな転換期にありますので、私たちを取り巻く環境は大きく変化しております。しかし、経営陣が揺るぎない信念を持って強力なリーダーシップを発揮すれば、当社グループの更なる発展と成長を必ず実現できると、私は確信しております。そして、当社が150周年を迎える時に株主の皆さまをはじめとする多くのステークホルダーにいま以上に評価される企業を目指して全力で取り組んでまいります。



木徳神糧グループの現状に対する認識と今後の方向性についてお聞かせください。

当社の主力事業である米穀事業に関しては、人口減少や少子高齢化による消費量の減少、行政の制度改革が流通の自由化から生

産の自由化へと波及しているほか、主要仕入先である全国農業協同組合連合会(全農)は米穀卸会社との関係に大きな変化をもたらす「新生全農米穀事業改革」を推進しております。このように当社を取り巻く消費者、取引先、産地、行政等が大きく変化しており、今後も事業環境は厳しいと考えております。

これに対し、米穀卸会社としての存在意義を発揮することが重要と考えております。このため、小売業等の要望に対応することだけでなく、消費者の真のニーズを捉えて消費者に認められる価値のある商品を開発し提供することが求められております。現在好評販売している腎臓病患者向けの低タンパク質ごはんのような当社の強みを生かした他社が真似できない商品をどんどん作り上げてまいります。また、米粒ではないコメ関連加工食品の開発に、より多くの力を注ぎたいと考えております。健康志向の雑穀入り胚芽精米や生活習慣病に対応できる米粉、高品質のコメ油等が考えられます。更に、国産米では味わえない新しい用途の輸入米の販売を進めてまいります。これらの取り組みを通してきっと消費者の方々に喜んでいただきご支持いただけることと確信しております。そして、もう一つの重要な経営課題は、当社グループの活性化です。グループ各社とのシナジー効果をより発揮できるように、グループ内の組織再編を積極的に進めてまいります。この一環として平成19年10月1日より当社は子会社である株式会社ライスピアを吸収合併いたします。



株主の皆さまへのメッセージをお願いします。

過去の数期において当社は足踏み状態が続いておりましたが、昨年から進めてまいりました様々な対策が功を奏し、当期の中間決算において予想を大幅に上回る結果となりました。つきましては、中間配当は1株につき2円(前期中間配当1株につき1円)とさせていただきます。また、通期においては更なる利益の拡大を目指してグループ一丸となって取り組んでまいりますので、株主の皆さまにおかれましては、今後とも一層のご支援を賜りますようお願い申し上げます。

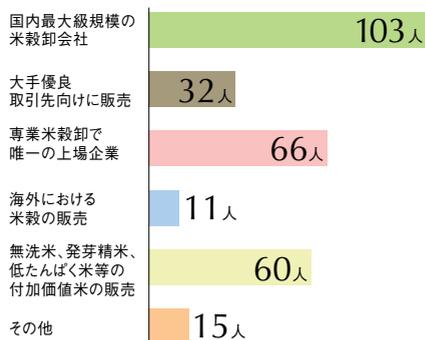
木徳神糧の「ココ」が知りたい!?

前回、第59期株主通信をお届けいたしました際にご協力をお願いいたしましたアンケートの結果についてご報告いたします。株主の皆さまにおかれましては、アンケートへのご協力、誠にありがとうございました。

調査期間：平成19年3月～5月、回収率：16.0% (219通)、対象属性：男性62.6%、女性29.2%、不明8.2%

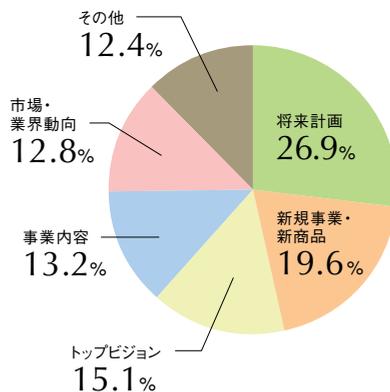
Question

当社について最も評価される点は以下のうちどれですか？（複数回答）



Question

当社の株主通信で取り上げてほしいテーマは何ですか？



特に多く寄せられたご意見、メッセージをご紹介します。

- 優待商品に新しい製品を取り入れてほしい。
- 増収増益につながる方策を進めてほしい。
- 経営ビジョン、中期計画、成長戦略を明確に示してほしい。
- 平山新社長に期待しているので、頑張ってください。
- 会社の知名度が低いので、もっと有効なPRを展開してほしい。

株主優待のお知らせ

1,000株以上保有の株主及び実質株主の皆さまに対し、当社の米穀製品を贈呈いたします。（年2回実施）

6月30日現在の株主の皆さまには
一律 2,000円相当

12月31日現在の株主の皆さまには
一律 3,000円相当

平成19年6月30日現在の株主の皆さまには、新米入りの「米浪漫」300g入り5袋、新商品の「そのまま炊ける雑穀入り胚芽米」150g入り8袋と玄米を精米仕立てにしてギャバを残した「もみ発芽精米」1kg入り1袋の3種類を詰め合わせて贈呈いたしました。



「そのまま炊ける雑穀入り胚芽米150g×8袋」
「もみ発芽精米1kg×1袋」
「米浪漫300g×5袋」

米穀事業

米穀業界は、18年産米の需給環境が均衡しているなか、卸会社の全農からの仕入が相対取引主体となったこと、コメ価格センターによる入札制度の改定が実施されたこと等により、引き続き卸会社による積極的な入札が行われず、コメ価格センターにおける落札価格は一部銘柄を除き小幅な動きを見せておりません。また、消費量の減少基調は変わらず、卸会社による厳しい販売競争が継続いたしました。当社グループは、玄米取引の拡大、在庫の適正水準の維持、製造・販売におけるコスト競争力の強化等に注力いたしました。

この結果、当中間連結会計期間における米穀事業の売上高は、41,587百万円（前年同期比13.7%増）、営業利益は640百万円（前年同期比3.1%増）となりました。

鶏卵事業

鶏卵価格は、前年同期と同じ水準を維持している環境のなか、当社グループは家庭用一般卵の販売促進や業務用卵の販売拡大、経費の削減に注力いたしました。

この結果、当中間連結会計期間における鶏卵事業の売上高は3,296百万円（前年同期比1.9%増）、営業利益は71百万円（前年同期比25.2%）となりました。

食品事業

製菓等の原料向けであるもち米粉、上新粉の販売につきましては、既存取引先との取引拡大により堅調に推移いたしました。また、植物性乳酸菌発酵技術によるたんぱく質調整米の販売は、新商品の発売等により堅調に推移いたしました。一方、主力の鶏肉販売は、原材料となる配合飼料価格の高騰により生産コストが上昇し、収益を圧迫しました。その他、惣菜販売につきましては、引き続き新規取引先の開拓、製造原価の低減に努めました。

この結果、当中間連結会計期間における食品事業の売上高は3,472百万円（前年同期比5.0%増）、営業利益は67百万円（前年同期は3百万円の営業損失）となりました。

飼料事業

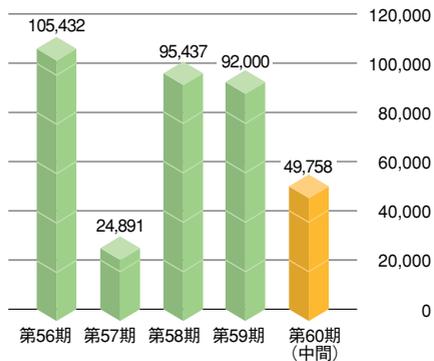
飼料販売は、配合飼料価格の高騰にも関わらず、当社グループの主要販売先である鹿島地区での配合飼料生産量が前年を上回る水準で推移していることに加えて、糟糠類・穀類の販売が好調であったこと等により堅調に推移いたしました。

この結果、当中間連結会計期間における飼料事業の売上高は1,402百万円（前年同期比30.1%増）、営業利益は92百万円（前年同期比19.1%増）となりました。

Financial highlight 連結財務ハイライト

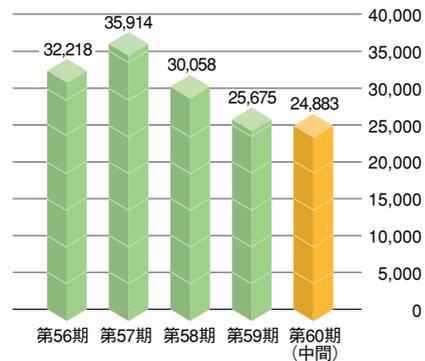
売上高

(単位：百万円)



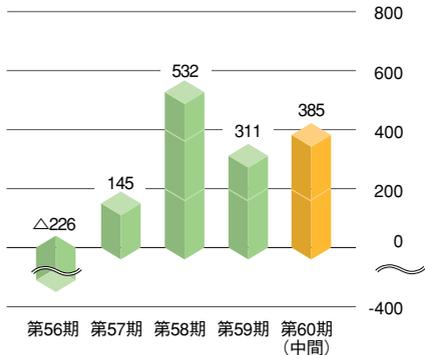
総資産

(単位：百万円)



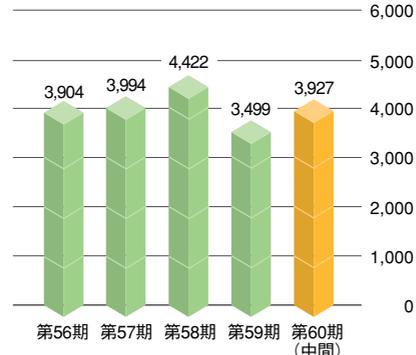
経常利益

(単位：百万円)



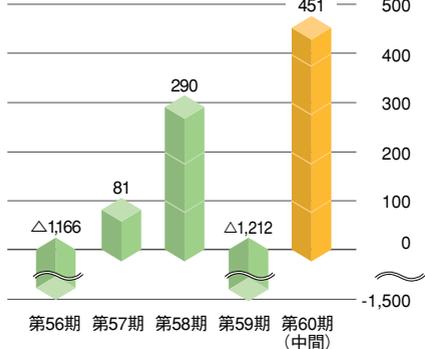
純資産

(単位：百万円)



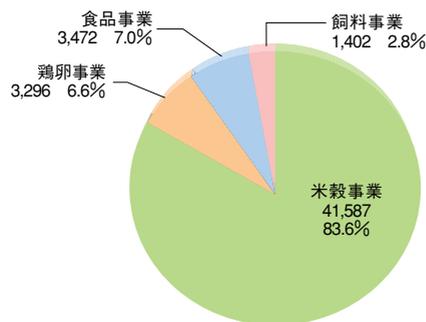
当期純利益

(単位：百万円)



連結売上高構成比

(当中間期 単位：百万円)



(注) 1. 第57期は決算日を従来の9月30日から12月31日に変更したため、平成16年10月1日から平成16年12月31日までの3ヶ月決算となっております。
2. 記載金額は百万円未満を切り捨てて表示しております。

Financial data

連結財務諸表

■ 中間連結貸借対照表 (要旨)

(単位：千円)

科 目	当中間期	前中間期
	平成19年 6月30日現在	平成18年 6月30日現在
資産の部		
流動資産	14,849,653	13,894,324
固定資産	10,034,091	11,326,238
有形固定資産	7,578,863	8,484,918
無形固定資産	199,686	324,424
投資その他の資産	2,255,541	2,516,894
資産合計	24,883,744	25,220,562

(単位：千円)

科 目	当中間期	前中間期
	平成19年 6月30日現在	平成18年 6月30日現在
負債の部		
流動負債	15,139,696	14,831,195
固定負債	5,816,719	6,791,208
負債合計	20,956,415	21,622,404
純資産の部		
株主資本	3,283,510	2,982,994
資本金	529,500	529,500
資本剰余金	331,509	331,500
利益剰余金	2,439,873	2,138,353
自己株式	△17,371	△16,359
評価・換算差額等	219,332	199,756
その他有価証券評価差額金	220,844	222,196
繰延ヘッジ損益	△2,636	△12,836
為替換算調整勘定	1,125	△9,603
少数株主持分	424,485	415,407
純資産合計	3,927,329	3,598,158
負債・純資産合計	24,883,744	25,220,562

point

資産合計

当中間連結会計期間の資産合計は前年同期より336百万円減少いたしました。

資産項目では、受取手形及び売掛金1,441百万円の増加、未収入金534百万円、土地405百万円の減少があり、負債項目では、支払手形及び買掛金1,249百万円の増加、一年内返済予定長期借入金819百万円、長期借入金761百万円の減少がありました。

(注) 記載金額は千円未満を切り捨てて表示しております。

■ 中間連結損益計算書 (要旨)

(単位:千円)

科 目	当中間期		前中間期	
	自 平成19年1月1日 至 平成19年6月30日	自 平成18年1月1日 至 平成18年6月30日	自 平成18年1月1日 至 平成18年6月30日	自 平成18年1月1日 至 平成18年6月30日
売上高	49,758,769	44,179,538		
売上原価	46,593,314	40,981,940		
売上総利益	3,165,454	3,197,598		
販売費及び一般管理費	2,746,828	2,973,372		
営業利益	418,625	224,225		
営業外収益	142,125	122,077		
営業外費用	175,303	202,945		
経常利益	385,448	143,357		
特別利益	154,655	5,854		
特別損失	57,669	1,248,312		
税金等調整前中間純損益	482,434	△1,099,100		
法人税、住民税及び事業税	61,226	19,083		
法人税等調整額	△35,816	△27,553		
少数株主損益	5,169	△3,058		
中間純損益	451,855	△1,087,571		

(注) 記載金額は千円未満を切り捨てて表示しております。

■ 中間連結キャッシュ・フロー計算書 (要旨)

(単位:千円)

科 目	当中間期		前中間期	
	自 平成19年1月1日 至 平成19年6月30日	自 平成18年1月1日 至 平成18年6月30日	自 平成18年1月1日 至 平成18年6月30日	自 平成18年1月1日 至 平成18年6月30日
営業活動によるキャッシュ・フロー	1,594,462	983,120		
投資活動によるキャッシュ・フロー	△109,796	△184,267		
財務活動によるキャッシュ・フロー	△1,468,598	△1,207,367		
現金及び現金同等物に係る換算差額	631	△1,380		
現金及び現金同等物の増減額	16,698	△409,894		
現金及び現金同等物の期首残高	2,029,174	2,671,274		
現金及び現金同等物の中間期末残高	2,045,872	2,261,380		

(注) 記載金額は千円未満を切り捨てて表示しております。

■ 中間連結株主資本等変動計算書 (要旨)

(単位:千円)

当中間連結 会計期間	株主資本				株主資本 合計	評価・換算差額等				少数 株主持分	純資産 合計
	資本金	資本剰余金	利益剰余金	自己株式		その他有価証券 評価差額金	繰延ヘッジ 損益	為替換算 調整勘定	評価・換算 差額等合計		
平成18年12月31日 残高	529,500	331,509	2,004,988	△16,942	2,849,055	226,891	1,655	△3,845	224,701	425,663	3,499,421
中間連結会計期間中の変動額											
剰余金の配当	—	—	△16,970	—	△16,970	—	—	—	—	—	△16,970
中間純利益	—	—	451,855	—	451,855	—	—	—	—	—	451,855
自己株式の取得	—	—	—	△429	△429	—	—	—	—	—	△429
株主資本以外の項目の中間連結 会計期間中の変動額 (純額)	—	—	—	—	—	△6,047	△4,292	4,971	△5,368	△1,178	△6,547
中間連結会計期間中の変動額合計	—	—	434,884	△429	434,455	△6,047	△4,292	4,971	△5,368	△1,178	427,907
平成19年6月30日 残高	529,500	331,509	2,439,873	△17,371	3,283,510	220,844	△2,636	1,125	219,332	424,485	3,927,329

(注) 記載金額は千円未満を切り捨てて表示しております。

Financial data

単体財務諸表

■ 中間単体貸借対照表 (要旨)

(単位:千円)

科 目	当中間期	前中間期
	平成19年6月30日現在	平成18年6月30日現在
資産の部		
流動資産	9,824,067	9,343,251
固定資産	8,077,805	8,884,364
有形固定資産	4,925,500	5,378,846
無形固定資産	147,185	250,949
投資その他の資産	3,005,118	3,254,568
資産合計	17,901,872	18,227,616
負債の部		
流動負債	10,857,581	10,230,474
固定負債	4,341,283	5,306,435
負債合計	15,198,864	15,536,909
純資産の部		
株主資本	2,490,132	2,486,939
資本金	529,500	529,500
資本剰余金	331,509	331,500
利益剰余金	1,646,494	1,642,298
自己株式	△17,371	△16,359
評価・換算差額等	212,876	203,767
純資産合計	2,703,008	2,690,707
負債及び純資産合計	17,901,872	18,227,616

(注) 記載金額は千円未満を切り捨てて表示しております。

■ 中間単体損益計算書 (要旨)

(単位:千円)

科 目	当中間期	前中間期
	自平成19年1月1日 至平成19年6月30日	自平成18年1月1日 至平成18年6月30日
売上高	38,628,420	32,967,141
売上原価	36,898,467	31,091,204
売上総利益	1,729,953	1,875,937
販売費及び一般管理費	1,389,347	1,561,644
営業利益	340,605	314,293
営業外収益	131,719	146,467
営業外費用	178,629	203,845
経常利益	293,696	256,915
特別利益	15,507	538
特別損失	37,729	1,104,681
税引前中間純損益	271,473	△847,228
法人税、住民税及び事業税	2,229	1,930
法人税等調整額	△2,584	11,341
中間純損益	271,828	△860,500

(注) 記載金額は千円未満を切り捨てて表示しております。

■ 中間単体株主資本等変動計算書 (要旨)

(単位:千円)

当中間期	株主資本										評価・換算差額等			純資産 合計		
	資本剰余金				利益剰余金						自己 株式	株主資本 合計	その他 有価証券 評価差額金		繰延ヘッジ 損益	評価・換算 差額等合計
	資本金	資本 準備金	その他 資本剰余金	資本剰余金 合計	利益 準備金	固定資産 圧縮積立金	その他利益剰余金 別途積立金	繰越利益 剰余金	利益剰余金 合計							
平成18年12月31日 残高	529,500	331,500	9	331,509	114,146	605,877	1,030,000	△358,386	1,391,636	△16,942	2,235,703	220,092	2,684	222,776	2,458,480	
中間会計期間中の変動額																
剰余金の配当	-	-	-	-	-	-	-	△16,970	△16,970	-	△16,970	-	-	-	△16,970	
中間純利益	-	-	-	-	-	-	-	271,828	271,828	-	271,828	-	-	-	271,828	
自己株式の取得	-	-	-	-	-	-	-	-	-	△429	△429	-	-	-	△429	
圧縮積立金取崩額	-	-	-	-	-	△15,032	-	15,032	-	-	-	-	-	-	-	
株主資本以外の項目の中間会計 期間中の変動額 (純額)	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	△5,091	△4,808	△9,900	△9,900	
中間会計期間中の変動額合計	-	-	-	-	-	△15,032	-	269,890	254,857	△429	254,428	△5,091	△4,808	△9,900	244,527	
平成19年6月30日 残高	529,500	331,500	9	331,509	114,146	590,844	1,030,000	△88,496	1,646,494	△17,371	2,490,132	215,000	△2,124	212,876	2,703,008	

(注) 記載金額は千円未満を切り捨てて表示しております。

Corporate data 会社概要

■ 会社概要 (平成19年6月30日現在)

商号 木徳神糧株式会社

事業内容 米穀事業、海外事業、飼料事業、
コメ加工食品事業

本社所在地 〒132-0015

東京都江戸川区西瑞江2-14-6

TEL：03-5636-1501 (代表)

FAX：03-5636-1601

資本金 5億2,950万円

従業員数 137名

■ 事業所一覧 (平成19年9月27日現在)

本店 東京都中央区銀座
本社 東京都江戸川区西瑞江
関西支店 滋賀県東近江市
桶川精米工場 埼玉県桶川市
本牧精米工場 横浜市中区かもめ町

■ 役員 (平成19年9月27日現在)

取締役・監査役

取締役会長	木村良
代表取締役社長	平山惇
専務取締役	松山正吉
常務取締役	山本幸雄
取締役執行役員	水野正夫
取締役執行役員	伊豫田直記
常勤監査役	高橋健治
※ 監査役	松下守
※ 監査役	杉野翔子

※印は、会社法第2条第16号に定める社外監査役です。

執行役員

上席執行役員	天川誠
上席執行役員	小森浩資
専任執行役員	稲垣英樹
専任執行役員	鎌田慶彦
専任執行役員	竹田光男

Homepage information

ホームページのご案内

当社ホームページでは、株主・投資家の皆さまに対して、企業情報や財務情報をはじめとして、事業活動やその動向を紹介しております。当社をよりご理解いただくためにも是非アクセスしてください。

<http://www.kitoku-shinryo.co.jp>



Information 株主情報

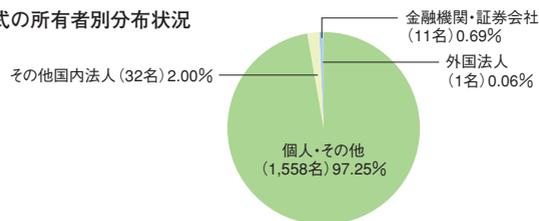
■ 株式の状況 (平成19年6月30日現在)

- (1) 発行可能株式総数 30,000,000株
 (2) 発行済株式の総数 8,530,000株
 (3) 株 主 数 1,602名
 (4) 大 株 主

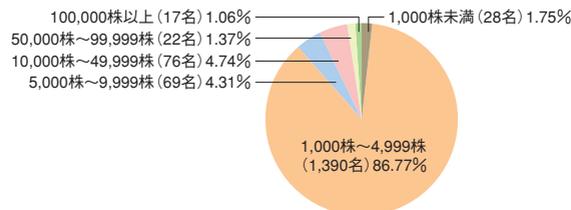
株 主 名	持 株 数	出 資 比 率
木 村 謙 三	405 千株	4.75 %
木 村 良 良	322	3.77
株式会社三菱東京UFJ銀行	300	3.52
木 村 友 二 郎	243	2.85
稲 垣 辰 彌	230	2.70
濱田精麥株式会社	218	2.56
水 野 正 夫	212	2.49
木徳神糧従業員持株会	188	2.21
株式会社三井住友銀行	186	2.18
農 林 中 央 金 庫	186	2.18

(注) 1. 持株数は、千株未満を切り捨てて表示しております。
 2. 出資比率は、小数点第3位を四捨五入で表示しております。

■ 株式の所有者別分布状況



■ 株式の所有数別分布状況



■ 株主メモ

- 事業年度 1月1日から12月31日まで
- 定時株主総会 毎年3月に開催いたします。
- 基準日 定時株主総会については12月31日、その他必要があるときはあらかじめ公告する一定の日
- 配当金受領株主確定日 12月31日及び中間配当金の支払いを行うときは6月30日
- 株主名簿管理人 東京都千代田区丸の内一丁目4番5号
三菱UFJ信託銀行株式会社
- 同事務取扱場所 東京都千代田区丸の内一丁目4番5号
三菱UFJ信託銀行株式会社 証券代行部
- 同事務連絡先 〒137-8081
(郵便物送付先) 東京都江東区東砂七丁目10番11号
(お問い合わせ先) 三菱UFJ信託銀行株式会社 証券代行部
電話 0120-232-711 (フリーダイヤル)
- 同 取 次 所 三菱UFJ信託銀行株式会社 全国各支店
野村證券株式会社 全国各支店
- 公 告 方 法 日本経済新聞

(届出諸事項についてのお知らせ)

住所変更、配当金振込指定・変更、単元未満株式買取請求及び買増請求に必要な各用紙及び株式の相続手続依頼書のご請求は、株主名簿管理人のフリーダイヤル0120-244-479で24時間承っておりますので、ご利用ください。